

# 2013-2014年度 米山奨学制度寄付金30,000円目標設定について

米山奨学委員会 委員長

**西谷雅之** (大阪城南RC)

平素は米山奨学制度に対し多大なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2013-2014年度米山奨学制度への寄付目標額30,000円の設定に関しまして、様々なご意見を頂戴しておりますが、中でも「もっと詳しく説明せよ」とのお言葉が多数寄せられておりますので、ここに再度ご説明させていただきますと共にご理解とご協力をお願い申し上げます。

まず、既に御承知のことと存じますが改めて米山奨学制度そのものの成り立ちについてご説明させていただきます。

米山奨学会は60年の歴史を持つ日本のロータリー独自の国際奨学事業であります。この国際奨学事業は1952年、日本で最初に設立されたクラブである東京ロータリークラブが、日本のロータリーの創始者と呼ばれる米山梅吉氏の功績を記念して始まりました。戦後の復興の道を歩み始めた当時の日本にとって、二度と戦争の悲劇を繰り返さない為に世界の国々との人物交流を深める必要性を多くの人々が感じていた時代背景のもと、ロータリー米山記念奨学事業は「留学生が平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築く」事を目的に始められ、『日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業』と高く評価され全国に拡大し、国際ロータリーが認める日本で唯一の日本の全ての地区が関わる「他地区合同活動」となり、日本最大の民間国際奨学事業として現在に至っております。

しかしながら、奨学生の採用数を見ると2005年にそれまでの1,000名から800名に削減、特別積立財産を取り崩して2012年度採用までの8年間800名を維持してまいりましたが、2013年度採用より更に100名削減の700名となっているのが現状です。

当R12660地区に目を向けますと、2008年には42名の採用と地区全クラブ数の約半分のクラブに奨学生

を送りこむ事ができる採用数を割り当てられておりましたが、2013年度は新規採用28名と継続奨学生10名の38名となっております。

地区米山奨学委員会では、地区84クラブ全てに奨学生を送り込むという目標を掲げております。採用奨学生の中で最も多いのは大学院生で、月140,000円の支給を受けていますので、それをもとに試算いたしますと、

奨学生1人にかかる年間の費用

$140,000 / 月 \times 12 \text{ か月} = 1,680,000$

全84クラブで必要となる年間の費用

$1,680,000 / 人 \times 84 \text{ クラブ} = 141,120,000$

当地区ロータリアンの数を3,700名として

おひとり当たりをお願いしたい年間寄付額

$141,120,000 \div 3,700 \text{ 名} \approx 38,141 \text{ 円}$

これが、3月23日に開催されたPETSや4月27日開催の地区協議会でお話しさせていただきました「おひとり4万円の寄付を頂ければ84全てのクラブに奨学生の面倒を見ていただけるようになる」との私の発言の根拠です。しかし、現状を考えた場合いきなり倍の4万円はどうだろうかとの意見が委員会内にもあり、段階的と言う事で3万円とさせていただきました。

一方、ここ数年地区米山奨学委員会ではロータリアンおひとり年間2万円の寄付をお願いしてまいりました。内訳は普通寄付5,000円+特別寄付15,000円です。これは達成されてきたのでしょうか？残念ながら過去5年間を見ても一度も達成されておられません。2011年の個人平均寄付額は19,384円です。

クラブ別にみますと、

20,000円達成クラブ36 (達成率43.3%)

未達成かつ10,000円未満10

うち1クラブは5,000円未満です。5,000円未満と言

う事はお願いした普通寄付にも達していないと言う事です。確かに、普通寄付は各クラブで金額を設定し会員数分送金していただく寄付金です。義務でもありません。しかしながら、1967年に財団法人の認可を申請した際、安定財源が無い為認可に難色を示す文部省(当時)に対し、普通寄付金による一定収入が見込めると説得して、国内全クラブから普通寄付の確約をもらう事を条件に設立許可を得た経緯があります。

皆様の中には20,000円達成を目指す方が先ではないかとお考えの方が居られるかもしれません。しかし、従来通り20,000円の目標を提示していたらここまで皆様の関心を引く事ができたでしょうか。現状に目を向け耳を傾けていただけたでしょうか。また仮に個人平均

20,000円が達成されても増えるのは220万円強、一人分の枠増に過ぎません。全84クラブに奨学生をという地区委員会の目標にはほど遠いのです。そしてジリ貧になりつつある米山奨学制度の現状も変わらないのです。

当地区は地区内に47の指定有資格校が存在し、現在24校を指定校としております。これは他地区に比べてはるかに学校数が多く、米山奨学制度にとって恵まれた環境にあると言えます。また、当地区の元R1理事・近藤PGは米山記念奨学会の副理事長です。米山奨学制度に造詣と理解の深いPGを擁し、環境的にも恵まれた当R12660地区から再度「日本で唯一の他地区合同活動」という冠にふさわしい米山奨学会とすべく、ご理解とご協力をお願いする次第です。